

地域に貢献された方々労う

9月15日、汐吹地区と石崎地区を皮切りに敬老会が開催され、多年にわたって地域に貢献されてきた方々が労われ、楽しいひと時を過ごしました。

この日は、両地区において、地元女性会による手料理などが振る舞われたほか、衣装や踊りで趣向を凝らしたカラオケ大会などが行われると、手拍子や大きな掛け声によつて会場は大いに盛り上がりました。

また、手料理には、地元の方から提供された魚介類や農産物も使われ、地域からの心のこもったおもてなしが参加者の心に染み入っている様子でした。

敬老会は農閑期となる11月頃まで各地区で順次開催される予定で、地域からの贈り物を心待ちにしているものと思われま



地域で起こり得る災害

想定した訓練で命を守る

9月12日、町内で初となる災害を想定した図上訓練が、上ノ国消防主催のもと、湯ノ岱地区で実施されました。

これは、消防署員が現地に赴き、災害時の適切な対処方法について地域住民に説明するとともに、『DIG（ディグ）』と呼ばれるゲーム形式の訓練を行うものです。

DIGとは、対象地区の地図を広げ、署員が『川の氾濫』『土砂崩れ』など災害の状況などが書かれたカードを5分おきに配布し、それうした状況が起きたら、『どこに逃げるべきか』『どう行動する方が安全か』などを参加者が考えて話し合い、実際に地図上でどこに逃げるかを判断するものです。

湯ノ岱地区は2年前の大雨によつて道路が越水し孤立したこともあり、参加者は災害は必ず起こるものとして真剣に訓練に臨んでいる様子でした。



いつか社会に出る子ども達

職場体験で大きな糧

9月11日から13日にかけて、上ノ国中学校2年生33人が町内外14事業所で職場体験学習を行いました。この体験学習は、『仕事』を肌で感じることで社会性を体感し、自らの将来について深く考える機会を得ることを目的に毎年行われているものです。

生徒たちは、3日間の日程で様々な仕事に触れ、『お客さんにも職場の方にも迷惑をかけず仕事をするためには、何事にも確認が大切だと感じました』『報告、連絡、相談って聞いたことありますが、本当にそうだったと思いました』と話すなど、配属された職場で何か手ごたえを感じ取っていた様子で、今後の生徒たちの成長に大きな糧を残した職場体験学習となった様子です。



伝統料理を高校生に

食育教室でふるさとの味伝える

9月12日、上ノ国高校において食育教室が実施され、地域の伝統料理である『くじら汁そうめん』など生徒たちが調理しました。

上ノ国町食生活改善協議会などの協力を得て行われたこの教室は、地域の伝統料理を家庭で食べたことのある子どもが少ない状況を文化継承の危機と捉え、高校が食育教室を計画した経緯があるそうです。

くじら汁そうめんをはじめ食べたという生徒は多く、人知れず文化が失われつつあることが実感されましたが、『作ったことがある』『授業で食べた』という経験が生徒たちの中に残りました。

高校ではこうした地域文化に根差した教室を定期的に実施すること、まちの将来を背負う若者に地域の文化が息づいていくことが期待されます。

